

1. 新共通定期券の目的・効果

✓ 公共交通利用者の利便性向上を図るため、バス・電鉄電車・市電に乗車可能な、共通定期券サービスを検討



1つの定期でバス・電鉄電車・市電が利用可能なシームレスで移動しやすい公共交通を目指す

①利便性向上

✓ **乗車可能な便数増加による待ち時間短縮**(利用者はバス・市電を自由に選択可能)
【(例) JR新水前寺駅前～通町筋区間の運行本数 (平日AM 8 時台)】

現在

バス停

バス：約40本/h 

バス停

電停

市電：約16本/h 

電停

共通定期 **計56本/hのバス・市電に乗車可能となる**

②混雑緩和

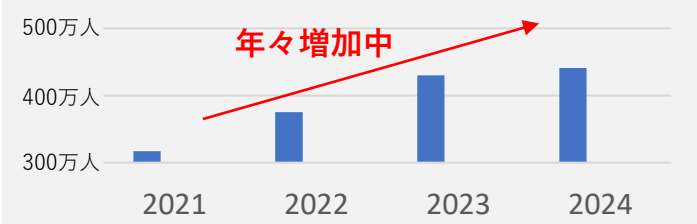
✓ 市電混雑時はバスを選択することが可能（またはその逆）となり、**バス・市電の乗車人員割合が最適化**されることで、車内や電停・バス停の混雑緩和を期待

③利用者増

✓ バス事業者は、2022年4月にくまモンのICカードの共通定期を導入後、定期を利用した乗車回数が増加

【定期を利用した乗車回数の推移】

共通定期導入前	共通定期導入後		
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
3,171,557人	3,752,263人	4,300,469人	4,410,639人



年々増加中

✓ 上限設定やスマホ登録・決済など利便性が高く、かつ、市電も参画することで、更なる利用者増が期待できる

④渋滞緩和

✓ 利便性向上により共通定期券の利用者が増えることで、現金決済が減少⇒定時性の確保に寄与
✓ 利便性向上、定時性の確保などにより、公共交通の利用者が増加することで、渋滞緩和も期待できる

新共通定期券及び新おでかけICについて

2. 新共通定期券の制度概要

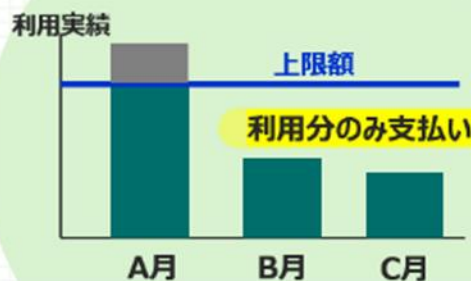
タッチ決済で広がる これからの移動のかたち

乗り物をえらぶ自由に、上制限のあんしんを。
新しい共通定期券プロジェクト、始動。



Point

01



上限設定で無駄なし

使った分だけのお支払い！

上限額を超えると乗り放題！

Point

02



スマホで登録・スマホで決済

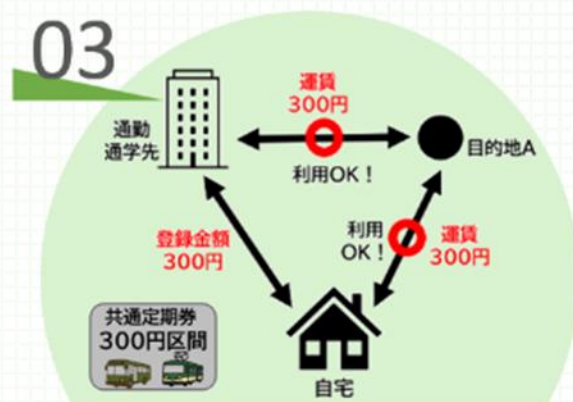
オンライン登録が可能！

原則、自動更新※！

※：通学や小児などは、資格確認が必要

Point

03



事前登録した運賃額の
範囲内で自由に乗車

特定の区間に限定されない！

同一運賃区間内なら、
対象のすべての路線が使える！



新共通定期券及び新おでかけICについて

3. 新共通定期券の利用までのイメージ

- ✓ オンライン申請や窓口申請、スマホ決済などを可能とする新たな仕組みを導入。
- ✓ 利用者管理システムや利用者登録用WEBサイトを開発するほか、窓口受付用端末も用意することを想定。

(1) 通勤定期申請イメージ…証明書類等は不要



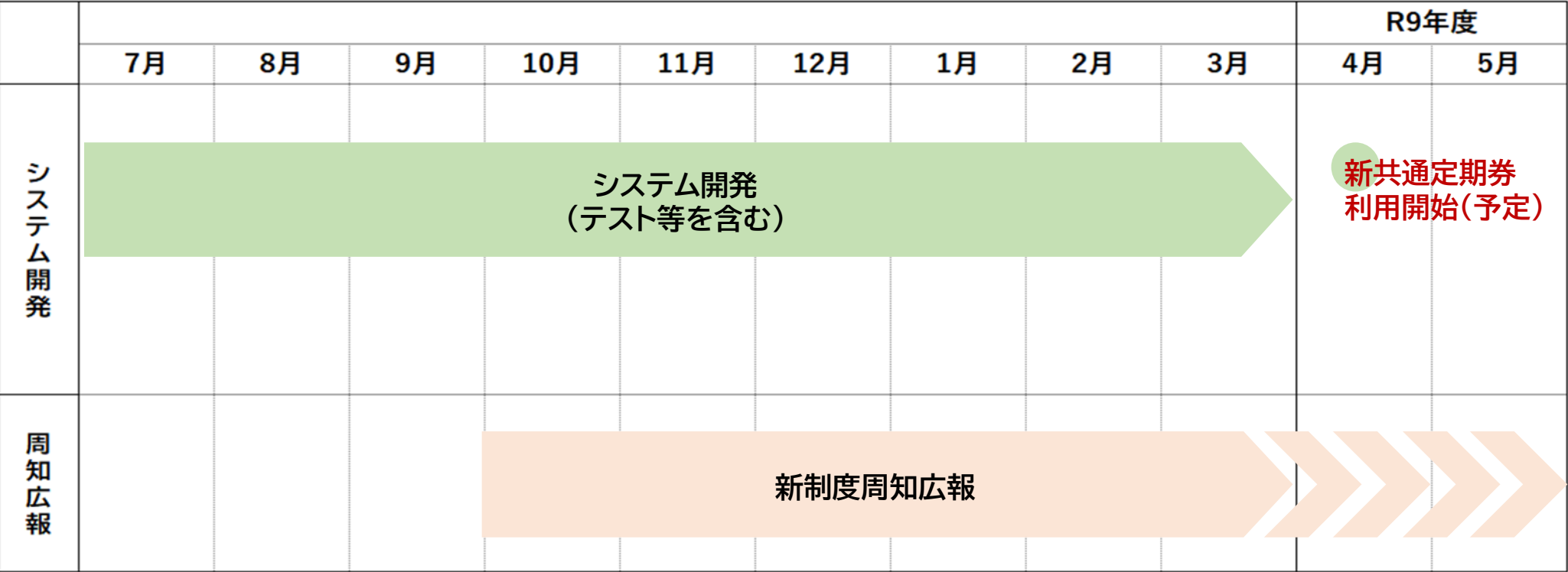
(2) 通学・障がい者等定期申請イメージ…在学期間や障がい手帳などの確認書類必要



(3) 交通事業者の窓口での受付イメージ



4. 新共通定期券の導入スケジュール及び補助金



総事業費(バス5社+電鉄電車+市電) 153,100千円(税抜)	
共通定期券システム開発費	141,700千円
窓口受付用端末	11,400千円(1台300千円×38台)

- 総事業費のうち、熊本市交通局負担分は36,000千円(税込)の見込み。広報費などと合わせて37,300千円を予定。
- 総事業費から国補助を差し引いた額について、1/2を県・市で折半して補助。残りの1/2は事業者負担。
※市電分の県補助はないため、その分は交通局が負担。
- (参考)交通事業者各社の負担は、バス5社、電鉄電車、市電の定期券収入額に応じて負担割合を算出し按分。

5. 新おでかけICの機能強化概要

■ 機能強化概要



Point
01



スマホで登録

操作に不安がある方は、
窓口で手続きをサポート

スマホがなくても手続き可能

Point
02



スマホで決済

タッチ決済に対応したクレジット・デビ
ット・プリペイドの各カードが利用可能

タッチ決済対応カードをスマホに登録す
れば、スマホでの支払いも可能

Point
03



原則チャージ不要

クレジットカード・デビットカードは
チャージ不要

※さらに利用しやすくなるよう引き続き検討



新共通定期券及び新おでかけICについて

6. 新おでかけICの利用までのイメージ

- ✓ 申請には、交通事業者の新共通定期券の仕組み（２）、（３）を活用し、おでかけICの対象者であるか要件を確認。
 ※「熊本市民」、「70歳以上」または「交付対象となる等級の障がい者手帳の交付を受けた方」

(2) オンライン申請イメージ…住所、年齢、障がい者手帳有無などの確認書類必要



(3) 市の窓口での受付イメージ



新共通定期券及び新おでかけICについて

7. マイナンバー連携を利用した更なる機能強化のイメージ

- ✓ 前述のオンライン申請には、「氏名、生年月日等の入力」及び「本人確認書類等のアップロード(画像添付)」が必要。
- ✓ スマートフォンの操作に不慣れな方もいらっしゃることから、利用者の申請に係る負担を軽減するため、くまもとアプリ(マイナ連携)を活用した熊本市独自の仕組みについて継続して事業者と協議していく。

《通常のオンライン申請の流れ（イメージ）》



くまもとアプリ（マイナ連携）を活用することで、破線部分の負担軽減の方法を検討

※くまもとアプリ利用イメージ



メリット1

- ✓ マイナ連携により、以下を自動で確認
 - ・氏名・住所・生年月日
 - ・障害者手帳の保有状況

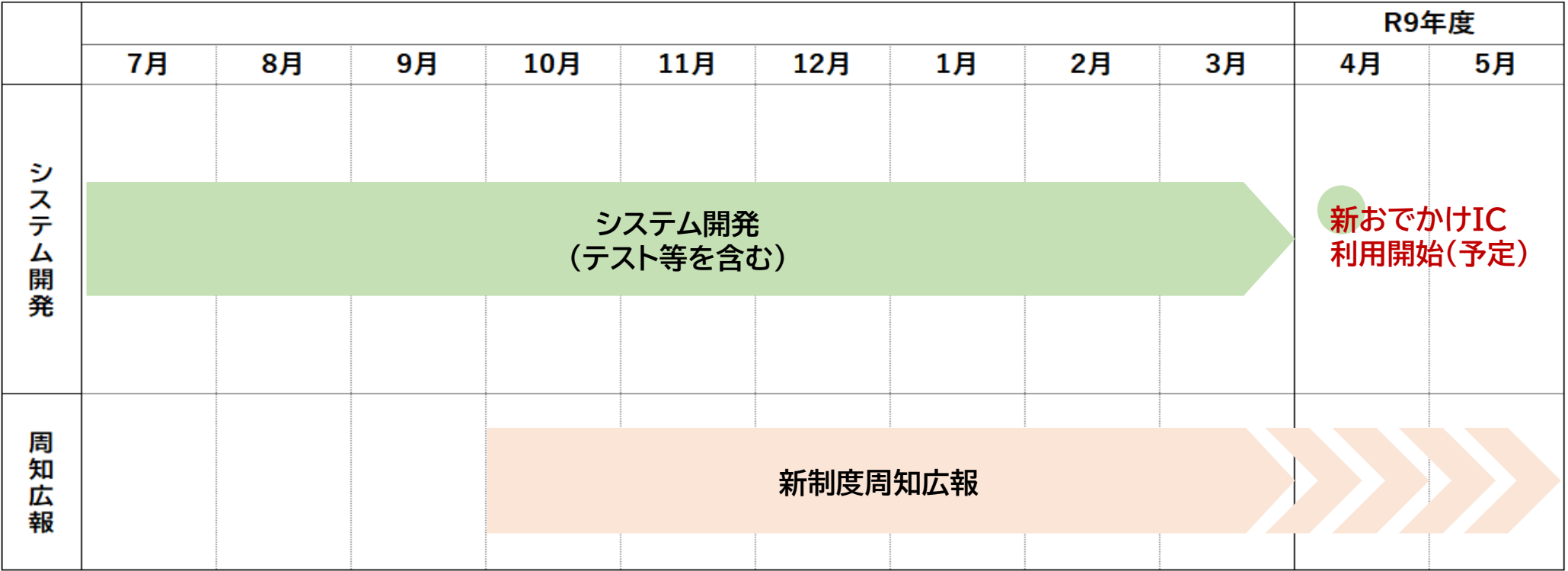
メリット2

- ✓ 氏名等の入力、画像添付が不要

メリット3

- ✓ マイナ連携により、確実に要件を確認
- ✓ 書類の不備が起こらない

8. 新おでかけICの導入スケジュール



事業費について

総事業費	77,000千円（税込）
システム開発費	69,080千円
窓口受付用端末	7,920千円（1台330千円×24台※）

※区役所及び総合出張所(計12か所)に配置する端末の総数

補正予算について

- 交通事業者で検討中の新共通定期券システムと同時に開発を進めることで、開発費用や期間の効率化を図る。
- 新制度の周知広報に関しても、可能な部分については、新共通定期券と共同での実施を検討し、効果的な取組となるよう努める。
- 周知広報にかかる経費は、今後精査。